



R. I. 第2620地区 静岡第1グループ
三島西ロータリークラブ

週報

第2233号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市本町6-35 呉竹
TEL(055)975-3210
会長 千葉 慎二 幹事 三田 明宏



広重版画より 三島 朝霧

第2304回例会

2021.5.13曇

司会 杉崎亮慈君

ロータリーソング 「我等の生業」
指揮 栗原達治君

会長挨拶 会長 千葉慎二君

弊社員が学生の時にファミリー・レストランでアルバイトをしていた時のことです。ある日、ゼンザイだかおしるこを注文した常連のおばあちゃんが、『あんこの汁が薄い』と言ってきたそうです。調べたところマニュアル通りに作られており、仕入れ先にこれまでと材料の変更もないことを確認し、そのように説明したにも関わらず、それでもなお『餡子が変わったはずだ、味が薄い』と言い張って譲らなかったそうです。『感覚的に』思い込んでしまったら、事実を目の前にしても納得するのは難しいという例ですね。何から何まで全てを数値化しておくことができる訳ではありませんから、誠実な説明にご理解を戴けるような信頼関係を日頃から築いておくことが重要だという戒めとして聞きました。

この『感覚的な思い込み』に『坊主憎けりや袈裟まで憎い』が加わると、クレームも極めて解決が難しく厄介になります。例えば担当者の失態で一たび信用を失ってしまふと、担当者を替えても、適切な仕事をしていても、どうしても否定的な見方をされてしまいがち、まるで毎日あら捜しをされているようになってしまいます。こうなるといくら事実を示して説明をしても感覚的な思い込みを覆し難くなります。

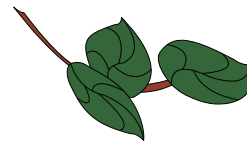
以前この三島西ロータリークラブの大先輩に『ネックレス理論』という言葉が教わったことがあります。お客様に係わる全てのサービス、全てのスタッフのあらゆる局面における対応が全て揃って初めてそのお客様からご満足が戴ける。玉が全て揃っていて初めてネックレスは成り立ち、たとえ100個の玉のうち99個が揃っていても、たった一つでも欠けてしまえばネックレスは弾けてバラバラになってしまいます。

長引くコロナ禍で不安や不満が社会で高まっているかも知れません。お客様からご満足を戴くためのハードルはより高まっているかも知れません。そう思って精進を積み重ねて行かねばならないと、若い社員の話聞いて感じました。

出席報告

	出席総数	出席率	メンバー	出席率
前々回	40/46	86.96%	42/46	91.30%
今回	43/49	87.76%	会員総数	51名

欠席者 芦川君、桐部君、小塚君、橋本君、花房君、桃瀬君



幹事報告

幹事 三田明宏君

- 5月行事予定 青少年奉仕月間
 - 13日(木)呉竹 夜間例会
担当 親睦活動委員会
 - 27日(木)呉竹 通常例会
外部卓話 静岡県議会議員 坪内秀樹氏
- 6月行事予定
 - ロータリー親睦活動月間
 - 3日(木)呉竹 通常例会 卓話 西川洋司 君
 - 10日(木)呉竹 夜間例会
クラブ協議会(各委員会年間報告)
 - 24日(木)呉竹 サヨナラ例会 激励・慰労会
- 理事・役員会報告
 - 6月24日(木)のサヨナラ例会は、開催する事が承認されました。コロナウイルス対策を充分留意して、例年とは違う形式をとります。詳細が出来次第、ご報告させていただきます。
 - 5・6月の行事予定(例会・会食・テーブル会等)は状況により変更する可能性があります。

2020~2021年度
国際ロータリー会長
ホルガー・クナーク

ロータリーは、機会の扉を開く

おめでとう

会員誕生日 原君
入会記念日 木村君
結婚記念日 諏訪部(照)君、森藤君
前田(博)君、千葉君

卓 話

親睦一座について

諏訪部敏之君



新しい会員の方も増えておりますので、親睦一座について紹介します。

親睦一座が誕生したのは、今から28年前の1993年です。当時の会員で小早川通晃さんという方がおられましたが、芝居に造詣が深く、西クラブのメンバーで芝居をやりたという夢を持たれていました。

その夢が実現し、歌舞伎の「文七元結」を彼の脚本と監督で公演することになりました。それが28年前です。

役者は親睦委員から選びましたので、「親睦一座」という劇団名にしました。

初演は全員が不慣れのためか、決して成功とは言えぬ出来でしたが、4年後に上演された「白波五人男」では、本格的な芝居を思わせるまでになっていました。これこそ、小早川さんの芝居に対する情熱と、それに応えて西クラブの会員の皆さんが真剣に取り組んだ成果であります。

大体、芝居の役者なんてものは、バカにならなければ出来ないものですが、敢えて、それが出来る西クラブのメンバーは、人間として素晴らしいものがあると強く感じます。

「白波五人男」の公演を機に脚本、監督の役を私が小早川さんから引継ぐことになりました。彼の指導と、彼が持っていた数多くの芝居のビデオは、私にとりまして大変な助けとなっています。

芝居の公演までの準備日数は、6ヶ月を要します。年末の公演ですと8月の中旬までに、親睦委員会で演目を決め、それを基に9月末までに脚本を完成し、役者や裏方を決

め、10月より週に1回の稽古に入ります。1回の稽古が約2時間ですから、本番までには、約20時間稽古することになります。

本番では、適度の緊張感とお客様の拍手と掛け声で気合が入るのでしょうか、稽古中の大根役者が、皆、名演技を見せるようになります。全員が、にやけたり、ふざけたりせず、真剣に役に取り組む姿は素晴らしく、お客様に感動を与えます。

芝居の内容につきましては、家族会などでの公演が主ですので、楽しくするために、途中にパロディを入れ、最後は必ずハッピーエンドで終わります。

芝居では、裏方の皆さんの存在も重要です。準備段階では髪や衣装の手配、舞台づくりなどがあり、当日は、役者の着付けや化粧などで休む暇もなく、芝居を盛り上げてくれます。

芝居の関係者は、閉会の後、食事をするようになっていますが、「やった！」という達成感で興奮が冷めやらぬ中、芝居を振り返りながらの楽しい雰囲気は、何にも代え難いものがあります。また、そこに深い親睦が生まれたことも毎回感じます。

親睦一座の公演は、西クラブの皆さんのご理解をベースとして行われるものですので、これからの公演に際しましても、皆様のご理解とご協力、更に積極的なご参加を戴きまようお願い致します。



親睦一座 過去の公演より

(週報担当:遠藤真道)

三島西RCテーマ

ホップ、ステップ
新たな飛躍に向けて足下を見つめてみよう